

マタイの福音書18章21～35節 救すために救された：本当の救しの心

「²¹そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」」²²イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。」²³ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。²⁴清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。²⁵彼は返済することができなかつたので、その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。

²⁶それで、家来はひれ伏して主君を挙し、「もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします」と言った。²⁷家来の主君はかわいそうに思って彼を救し、負債を免除してやった。²⁸ところが、その家来が出て行くと、自分に百デナリの借りがある仲間の一人に会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、「借金を返せ」と言った。²⁹彼の仲間はひれ伏して、「もう少し待ってください。そうすればお返しします」と嘆願した。³⁰しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。³¹彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。³²そこで主君は彼を呼びつけて言った。「悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。³³私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。」³⁴こうして、主君は怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏たちに引き渡した。³⁵あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」この箇所でイエスは、私たちの人生全体に影響を与える力を持つ何か一家族や、職場や、教会での交わり、更には私たちの日々の喜びさえ変える何か、について考えさせてください。それは救いです。私たちは生活のありとあらゆる部分に、神様との関係や他の人との関係から何らかの影響を受けています。そして、それらの関係は、そこに救しがあるかないかでとても変わってきます。考えてみてください。全ての人間関係は、少なくとも、二人の人間で成り立っています。そのどちらもが自己中心で罪に苦しむ人間です。また、そのような私たちの関係は、自分を中心にするのではなく、他の人を愛することを可能にする神も神の愛も知らない世の中に存在しています。ですから、神様が完全に傷ついた心を癒して下さるまで、その痛みを経験し続けます。それまでの間、唯一違うことは、私たちが救す力を持っているかどうかということです。ここにいる皆さんには、おそらく1)自分の過去の行いについて本当に救されたと感じたことがない、あるいは 2)自分を傷つけた人を心から救することはできないと感じている、そのどちらかに当てはまるんじゃないでしょうか。もしどちらかに当てはまるなら、今日ここに来られて正解です。それは、神様が福音の良い知らせを通して、本当の救いを与えてくださったことを、イエスが教えてくれるからです。もし、今日、この箇所を真に理解できれば、救いとは単に言われたからするものではないということがわかります。救いとは、キリストにおいて私たちが神から受けた圧倒的な救いへの応答として行うものです。ですからまず、救いとは何かについて聖書の教えに耳を傾けます。それから、どうすれば本当に救す心を持つ者となれるのか、最後にクリスチャンはなぜそうならなくてはならないのかを見ていきたいと思います。

救しとは何か？

この箇所は、ペテロがイエスのもとにやって来て「誰かを救すとき、何回救せばよいのか」と尋ねることから始まります。ペテロも私たちと同じですよね。人に付け入られ、利用されることがないよう、救すには限度があって当然だと思っています。ペテロの質問は、実際とても見事です。7回まで救すということは、寛大だと思われるのではないでしょうか。けれども、イエスの「七回までとは言いません。七回を七十倍 するまでです。」という答えは、もし何度も救すか数えているとしたら、私たちの救すということの理解が、神様とはかけ離れていることを教えてています。正直に言えば、私たちは何度も救すか数えずにはおられないのではないかでしょうか。実際、それがこの世が教えることです。社会は、救せば私たちの痛みは増し、私たちを傷つける人は、また傷つけてくるだけだと教えます。けれども、この壊れた世界観の中でも、悔い改めがあるところでは本当の救しに限度はない、

とイエスは言われます。イエスはこの例え話でこれを明確に示しています。王は神様の性質をあらわし、王のしもべが私たちを表しています。しもべが借金を返せないことで、罰を宣告されると、「それで、家来はひれ伏して主君を挙げ、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。」と26節にあります。悔い改めた姿を見た王は、借金を赦してやりました。ルカの福音書 17章3~4節「あなたがたは、自分自身に気をつけなさい。兄弟が罪を犯したなら、戒めなさい。そして悔い改めるなら、赦しなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回あなたのところに来て『悔い改めます』と言うなら、赦しなさい。」ここでもまた、悔い改めがあるところでは、赦しに限度があつてはならないとイエスは命じておられます。ならば、「もし誰かが悔い改めない場合はどうなの?」と言われるかも知れません。それでもなお、赦す心を保つよう、イエスは命じておられます。もちろん、もし悪いことをした人が、自分の過ちを認めて、赦しを求める場合、赦すことで和解を完結することはできません。しかし、イエスはマルコの福音書 11章25節で、「また、祈るために立ち上がるとき、だれかに対し恨んでいることがあるなら、赦しなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してください。」と言っています。つまり、『心の中で、『あの人は赦せない』と言っているのに、『私を赦してください』と神様に祈りに行くな』とイエスは言っておられるのです。ですから、赦しは神が命じられた心の姿勢です。そして、この心の姿勢は、誰かが赦しを求めているときに、赦しを与えないことはありません。でも、赦すとき、実際は何をしているのでしょうか?まず、27節で王がしもべに対して「かわいそう」と思ったとイエスは言われます。この「かわいそう」という言葉は、ギリシャ語で、「あわれみを持つこと」を意味します。あなたを傷つけた人を前に、「あの人は間違っている、私が傷つけられたんだから、あの人は正し裁きを受けるべきだ」と思いますが?もしそうなら、決してあわれみを持つことも、赦しへの第一歩を踏み出すこともできません。憐れみは、相手も自分と同じように罪や自己中心の思いに苦しんでいることを知り、その人が最も必要としているのは、キリストの愛を知ることだ。分かり始めた時に生まれます。それを思い出すことで、人にあわれみを持つことができます。赦しは憐れみから始まります。次に、27節は、「家来の主君はかわいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。」と言います。これが赦しを定義するポイントです。王が借金を免じてやった時、その計り知れない借金はただ消えたわけではありません。誰かがそれを引き受けなければなりませんでした。王はその借金の重みを負わなければなりませんでした。赦すとき、受けた心の痛みはただ消えるわけではありません。それを引き受ける覚悟が必要なんです。赦しは自己犠牲なのです。誰かを借金から解放し、その重みを自分で背負うことです。もし、しもべが返済を試みたとしても、彼が借金を返済することは、絶対に不可能だったでしょう。あなたも、あなたを傷つけた誰かに対して同じように感じるかもしれません。その人が何をしたとしても、その人がしたことによって受けた心の痛みを消すことはできません。ここではっきりさせておきたいのは、赦しとは誰かがあなたにしたことを肯定することではありません。王の赦しは、しもべの借金を正当化したわけではないのです。赦すことは罪を見過ごすことではありません。赦すことで、弱さを示すことでもありません。真の赦しとは、相手が受けるに値しないものをあえて与えること。つまり、犠牲的な愛です。「あなたがわたしに犯した罪について、あなたが負うところはもはやない」と言っているのです。

他の人を心から赦す人になるにはどうすればいいですか?

ですから、残された疑問は「もしそれが真の赦しの定義であれば、真に赦す人になるためにイエスが期待されることは何だろうか」ということです。ここが、キリスト教が他と根本的に違うところです。聖書は決して、「あなたのうちに、より良い人になるための力がある。だから赦せるようになって、もっと愛せるようになれる」とは言いません。そう言わないのは、私たちには放っておけば、赦す能力も赦したいという望みも持っていないからです。むしろ、赦すために私たちの負債を引き受け、真に赦すことのできる心を与えてくださるために、神ご自身が私たちの力では成し得ないことを成し遂げられる物語へと導いてくださいます。イエスの例え話で、しもべは、到底自分では返すことのできな借金から解放されて、王に本当に赦されたのです。しかし、彼は王の前を離れて、家に帰る

途中に、自分に数日で返せる借金を負った同僚のしもべに会いました。彼は、その人にその借金をすぐに返済するように迫りました。その人は、今すぐに返すことができないので泣きながら、待ってくれるように頼みました。これは、しもべが王に懇願したのと同じです。しかし、王から惜しみない恵みと慈しみを受けたばかりなのに、彼は待つことを拒み、赦そうとしませんでした。別のしもべがこれを見て、このことを王に報告しました。悪いしもべは、なぜ赦すべきだったのか、見てみましょう。主人は、「あなたは良い人なのだから赦すべきだった」とは言いませんでした。**マタイの福音書18章33節**で、「かっこ主人は、私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。」と言っています。イエスが言われたかったことはなんでしょうか？真の赦しを経験したしもべは、その同じ慈しみを仲間のしもべにも向けるべきだったのです。彼が受けた驚くべきほどの赦しに対して、赦しを与えることが当然の応答であるべきでした。イエスが語られたこの物語の詳細は偶然ではありません。しもべが王に返せないほどの借金を負っていたように、私たちもこの世を支配される神様に対して、到底返すことのできない罪という借金を負っています。神を、お金や仕事、名声、家族など、神ではないものと取り換えてしまいます。神が私たちの心に刻まれた道徳律を破っているのです。この上なく聖い神に対する、私たちの罪の負債は際限がありません。もし神が無限のあわれみと恵みを持って応えて下さらなければ、私たちが当然受けるべき罰から逃れられる望みはないのです。しもべと同じように、私たちの唯一の希望は、王の恵みだけなのです。唯一の希望は、神が赦しを与えてくださり、私たちの借金をご自身が引き受け、私たちが受けるべき罰を負ってくださるということです。この良い知らせは、神が恵みで応じてくださったということです。**コロサイ人への手紙 2章14節**「私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。」福音とは、限りなく聖なる神が私たちの一人となり、十字架で私たちの罪の借金をご自分の身に負ってくださることで、真の赦しが私たちにあたえられることを示すものです。神は今、すべての人が、自らの借金を返すのではなく、イエスの十字架を見上げて悔い改め、罪から離れること、また、イエスのみに信頼して、赦しを求めるようにと招いておられます。もしあなたがイエスに信頼しているなら、恵みを受け、限りない罪の借金は既に支払われました。そして、イエスが私たちのために成し遂げてくださったことに応じて生きるようにと招かれます。赦された負債の大きさを深く自覚すればするほど、他の人を真に赦す力が与えられます。私たちが神に対して犯した罪よりも大きな罪を、私たちに対して犯すことのできる人など誰もいません。福音は、私たちに恨みを手放し、キリストが示してくださった模範の中に自由を見出す力を与えてくれます。ですから、パウロは**コロサイ人への手紙 3章13節**でこう言うのです。「互いに忍耐し合い、だれかがほかの人には満を抱いたとしても、互いに赦し合いまさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」私たちに対する罪の負債を赦し、その重荷から解放される唯一の希望は、イエスが私たちの罪のために死に、与えてくださった赦しを受け入れることです。どうしても赦せないとと思う人の前に立つとき、イエスを、あなたのために捧げられた大きな犠牲を思い起こすことができるよう祈りましょう。神が見せてくださった真の赦しの力を、その人にも見せられるように求めましょう。

なぜ赦さなければならないのか？

最後に、私たちは赦すべきですが、なぜでしょうか？

1)赦さないことで自分を壊してしまう。

マタイの福音書 18章28節には、赦さないしもべが「仲間のしもべを捕まえて絞め始めた」と書かれています。文字通り、彼は仲間のしもべの小さな借金を赦す力を持っていませんでした。他人を苦しめるために赦しを拒むことで、結局は自分自身を牢獄にとじこめてしまします。自分に害を与える人が嫌がることを言ったりやったりして、その人が望むであろうことはしません。ある著者は、こう言いました。「赦さないことを選ぶのは、毒を飲んで相手が死ぬのを待つようなものです」と。それは真理です。なぜなら、赦さないことは憎しみへと変わり、憎しみは心を蝕むからです。結局、それはキリストの愛の深さと力を私たちが体験することを妨げてしまいます。私たちは赦さなければな

りません。それは、イエスがそう命じておられるからです。ですが、その命令は、私たちをイエスの無限の愛へと招き、その中で私たちは赦す力を見出します。

2) 救さなければならぬのは、救いの証だからです。

イエスは、[マタイの福音書 18章35節](#)でこう言われました。「あなたがたもそれぞれ 自分の兄弟を中心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」これを、まず他の人を赦すことでも私たちも赦されるという意味にとらえる人たちがいます。ですが、このたとえ話はイエスがそのように言っているのではないことを示しています。王は、このしもべが仲間のしもべを赦す機会さえ与えられる前に、赦しています。ピューリタンのジョン・オーウェンはこのように言いました。「他の人を赦すことが、自分自身の赦しをもたらすわけではないが、他の人を赦さないことは、自分自身が赦されていないことを証明するものだ。」しもべの赦そうとしない態度は、彼が王の赦しを受けたにも関わらず、その心が変えられたのではなく、ただ自分の損得のみを求めていたことを示しているように見えます。ですが、イエスの死によって与えられた赦しを真に受け入れるとき、それは私たちの心に根を下ろし、私たちを変え始めるのです。神を喜ばせたいと言う思いが強くなり、神のご性質や愛と赦しがすべての人に知られることを願うようになります。神の恵みに応えて、それを他の人にも惜しみなくしめすることで、自らも赦されたことを証しするのです。イエスの言葉にもう一度注目してみましょう。イエスは、「心から赦さなければならぬ」と言います。たびたび、私の子供たちの間で聞くような強制されて言う「赦してあげる」と言うのとは違います。イエスは、キリストの愛と平和で包まれた心から湧き出る赦しへと私たちを招かれます。それがないのであれば、私たちは「私は、キリストにおいて神に許された計り知れない負債を、個人的に認識しているだろうか」と自分に問うべきです。もしそうなら、何が、他の人に同じ恵みを示すことを妨げているのでしょうか？救い、つまり罪の赦しを受けた者として、私たちはイエスを知らないこの世において、神の赦しの大天使として生きる機会を与えられています。

3) 救さなければならぬ最後の理由は、赦すことが最も神様を倣うからです。

[エペソ人への手紙 5章1節](#)「ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。」どのように神に倣うのでしょうか？パウロはこの説の直前でこう言っています。[エペソ人への手紙 4章32節](#)「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。」私たちが神のご性質を最もはっきり自分の人生で表すのは、他の人を心から赦すときです。一生忘れられない出来事があります。2007年に自分のオフィスで働いていた時のことです。たくさんの警察車両が街に押し寄せてくるのが見えました。それと同時に、職場から数百メートル離れたところにある大学のキャンパスで、生徒が銃を乱射しているというニュースが飛び込んできました。ケリーが授業を受けている建物の隣の建物で銃が撃たれていると聞き、私の心は締め付けられました。私も銃の音が聞きました。ケリーの無事を確認するまで何時間も電話をかけ続けました。その生徒は、建物に鍵をかけて、32人を銃で撃ち殺しました。そして、犯行を終えると自らの命を絶ちました。その後数日間、この恐ろしい事件に巻き込まれた方々のインタビューを数多く耳にしました。皆、亡くなった32人への悲しみを語っていました。それから、その事件の日に娘を亡くした家族のインタビューを見たんです。その家族は、32人の死を悼むだけでなく、33人の命について悲しみを語りました。自分たちの娘を殺した男のことについても悲しんでいたんです。皆さんがどう思うかは分かりませんが、その男が死んだのを喜ばないのは私には難しかったと思います。しかし、その家族はそこでとどまりませんでした。私たち家族は、彼がしたことを赦して、彼の家族のために祈っています。と言ったのです。後で知ったのですが、その家族はクリスチヤンでした。神が御子を捧げ、私たちの赦しのための代価を払うことで示された愛は、私たちを救うだけでなく、他の人を真に赦す力を与えてくれます。今日、その愛にどのように応えるよう神は招いておられるでしょうか？

Matthew 18:21–35 Forgiven to Forgive: The Heart of True Forgiveness

²¹Then Peter came up and said to him, “Lord, how often will my brother sin against me, and I forgive him? As many as seven times?” ²²Jesus said to him, “I do not say to you seven times, but seventy-seven times. ²³Therefore, the kingdom of heaven may be compared to a king who wished to settle accounts with his servants. ²⁴When he began to settle; one was brought to him who owed him ten thousand talents. ²⁵And since he could not pay, his master ordered him to be sold, with his wife and children and all that he had, and payment to be made. ²⁶So the servant fell on his knees, imploring him, ‘Have patience with me, and I will pay you everything.’ ²⁷And out of pity for him, the master of that servant released him and forgave him the debt. ²⁸But when that same servant went out, he found one of his fellow servants who owed him a hundred denarii, and seizing him, he began to choke him, saying, ‘Pay what you owe.’ ²⁹So his fellow servant fell down and pleaded with him, ‘Have patience with me, and I will pay you.’ ³⁰He refused and went and put him in prison until he should pay the debt. ³¹When his fellow servants saw what had taken place, they were greatly distressed, and they went and reported to their master all that had taken place. ³²Then his master summoned him and said to him, ‘You wicked servant! I forgave you all that debt because you pleaded with me. ³³And should not you have had mercy on your fellow servant, as I had mercy on you?’ ³⁴And in anger his master delivered him to the jailers, until he should pay all his debt. ³⁵So also my heavenly Father will do to every one of you, if you do not forgive your brother from your heart.” In this passage Jesus confronts us with something that has the power to impact the entire course of our lives, change our families, our workplace, our church, and even the joy we live with each day. That is forgiveness. Every crevice of our lives is impacted in some way by relationship; whether its our relationship to God or others. And every one of those relationships is affected by either the presence or absence of forgiveness. Think about it. Every human relationship consists of at least 2 people, both of which struggle with selfishness and sin. AND all of our relationships exist in a world that neither knows God nor His love that enables us to leave selfishness behind and love others. Therefore, until God completely heals our brokenness, our relationships will experience pain. Until then, the only difference will be whether or not you and I have the power to forgive. I would say that each person here has either 1) never felt truly forgiven for something you did or 2) you feel that you will never be able to forgive that person who hurt you from your heart. If this describes your experience, then you are in the right place today, because Jesus is going to show us that God has made true forgiveness possible through the good news of the gospel. If we truly understand this passage today, we will see that forgiveness is not just something we do because we are told to. Forgiveness is something we do as a response to the overwhelming forgiveness we have received from God in Christ. So, first we are going to let the Bible teach us what forgiveness is, then how we become people who have a heart of true forgiveness, and finally why Christians must do it.

What is Forgiveness?

The passage begins with Peter coming to Jesus and asking him essentially, “What’s the limit on forgiving someone?” Peter is thinking like us, right? We believe that forgiveness should have limits, otherwise people will take advantage of us. Peter’s question is actually impressive. His suggestion of forgiving up to seven times would have been seen as generous. However, Jesus’ response, “not as many as seven, but seventy times seven” makes clear that if you are counting, your understanding of forgiveness is nowhere close to God’s. If you and I are honest we find it extremely difficult not to count, in fact its what our world would tell us to do. Our cultures tell us that if we forgive our pain will only be worse and those who hurt

us will only hurt us again. However, into our broken worldviews Jesus says true forgiveness is without limits where repentance is present. (repeat). Jesus illustrates this clearly in this parable where the King is displaying the character of God and we are represented by the servant. Upon announcement of the servant's punishment for not being able to pay his debt v.26 says, "So the servant fell on his knees, imploring him, 'Have patience with me, and I will pay you everything.'" At his display of repentance, the King truly forgave the debt. Luke 17:3-4 (ESV) "3 Pay attention to yourselves! If your brother sins, rebuke him, and if he repents, forgive him, 4 and if he sins against you seven times in the day, and turns to you seven times, saying, 'I repent,' you must forgive him." Again here Jesus commands forgiveness to be unlimited where repentance is present. Now you might ask, "What if someone does not repent?" Jesus still commands that we have a heart posture of forgiveness. It's true that if the wrong doer does not come and confess wrong and ask for forgiveness, reconciliation through forgiveness cannot be completed. However, Jesus says Mark 11:25 (ESV) "And whenever you stand praying, forgive, if you have anything against anyone, so that your Father also who is in heaven may forgive you your trespasses." In other words, Jesus is saying, "Don't go to God in prayer saying 'forgive me,' when in your heart you are saying, 'But that other person, I cannot forgive them.'" So we see that forgiveness is a heart posture commanded by God. And this heart posture will not withhold forgiveness when someone asks for it. But what are we actually doing when we forgive? First, in v.27 Jesus says the King had pity for the servant. The word "pity" is the Greek word meaning "to have compassion." In front of the person who hurt you, are you just thinking, "They are wrong, I have been hurt, they deserve justice?" If so, you can never have compassion and take the first step toward forgiveness. Compassion comes when I begin to see that person as someone who, like me, struggles with sin and selfishness and the one thing they need most is know the love of Christ themselves. Remembering this helps me have compassion for them. Forgiveness begins with compassion. Next v. 27 says "the master released him and forgave him the debt." Here is the point when defining forgiveness. When the king forgave the debt, that unfathomable debt did not just disappear. Someone had to absorb it. The king had to take the weight of the debt. When we forgive, the pain, the debt, the loss just doesn't disappear. We must be willing to absorb it. Forgiveness is self-sacrifice. Its releasing someone from debt and taking the weight on ourselves. If he would have tried, there is absolutely no way this servant could have paid back his debt. You may feel the same toward someone who hurt you. No matter what they do, there is no way they could repay the loss, the pain you have received by their actions. Allow me to be clear, forgiveness is not saying what someone did to you is okay. The king's forgiveness did not make the servant's debt okay. Forgiveness is not ignoring sin. Forgiving is not showing weakness. True forgiveness is choosing to give someone what they do not deserve, that is sacrificial love. You are saying they are no longer in debted to you for the sin they committed against you.

How Can I Become Someone Who Truly Forgives Others?

So the question this leaves us with is, "If that is the definition of true forgiveness, how does Jesus expect us to become someone who truly forgives?" This is where Christianity is fundamentally different from anything else you will hear. The Bible never says, "You have in you what you need to become a better person, become forgiving, become more loving." It does not say that, because left on our own we don't have the ability nor the desire to be forgiving. Rather, it points us to the story where God Himself comes to do what we cannot, that is absorb the debt to provide forgiveness and enable our hearts to truly forgive. In Jesus' parable the servant receives freedom from an unrepayable debt, truly forgiven by the King.

Yet, he leaves the king's presence and while walking home runs into a fellow servant who owed him a debt that would have been repayable in a few short days. He demands immediate repayment. The man cries out for patience not able to repay in that moment. This is the same plea the servant had just cried out to the king. However, although having received extravagant grace and mercy just moments earlier from the king, he refuses patience and doesn't forgive. Some other servants see this go down and report it to the king. Now listen to the reason given to the wicked servant as to why he should have forgiven. The master doesn't say, "you're a good man, you should have forgiven." He says, [Matthew 18:33 \(ESV\)](#) "**Should not you have had mercy on your fellow servant, as I had mercy on you?"**" What's Jesus' point? Having experienced true forgiveness, the servant should have extended that same mercy to his fellow servant. Giving forgiveness should have become a natural response to the extravagant forgiveness he had received! Jesus' details in this story are not an accident. Just like the servant had an unrepayable debt to the king, you and I have an unrepayable sin debt to the God of the universe. Even though He is God, we exchange Him for things that are not god at all (money, jobs, reputation, family, etc). We break His moral law that is written on our hearts. Our sin debt is infinite because it is toward and infinitely holy God. If He does not respond in infinite compassion and grace, we have no chance of escaping the righteous punishment we deserve. Like the servant, our only hope is the King's grace. Our only hope is that He would provide forgiveness and absorb our debt into Himself and take the punishment we deserve. The good news is that God has responded in grace. [Colossians 2:14 \(ESV\)](#) "**by canceling the record of debt that stood against us with its legal demands. This he set aside, nailing it to the cross.**" The gospel is displayed in our infinitely holy God becoming like one of us and going to the cross to take our sin debt on Himself so that true forgiveness can be offered to us. God now invites all people, not to repay their debt, but to look at the cross of Jesus and repent, turn from sin and turn to trust in Him alone for your forgiveness. If you have trusted in Jesus you have received grace and your infinite sin debt has been paid! Now, He calls us to live in response to what Jesus has done for us. The more we realize the great debt from which we have been forgiven, the more we are empowered to truly forgive others. No one can ever sin against us greater than we have sinned against God. The gospel empowers us to release resentment and find freedom in Christ's example shown to us. It's why Paul says in [Colossians 3:13 \(ESV\)](#) "**bearing with one another and, if one has a complaint against another, forgiving each other; as the Lord has forgiven you, so you also must forgive.**" Our only hope to forgive and have the power to release others of their sin debt against us is by receiving the forgiveness Jesus died to provide for us. When you are standing in front of that person you think you just can't forgive, ask God to help you remember Jesus and His ultimate sacrifice for you. Ask Him for power to display the forgiveness He showed to you to that person.

Why Must We Forgive?

Finally, we know we must forgive, but why?

1) Not forgiving destroys you.

[Matt 18:28](#) says that the unforgiving servant "**seized his fellow servant and began to choke him.**" He literally has no capacity to forgive a fellow servant's lesser debt. By withholding forgiveness as a means to see the other person suffer, we only end up putting ourselves in prison. You will do and say what your offender doesn't like and not do what you think they would like. One author said, "Choosing not to forgive is like taking poison and waiting for the other person to die." This is true because unforgiveness always turns to bitterness and bitterness rots our hearts. Ultimately it prevents us from experiencing the depth and power of

Christ's love for us. We must forgive because Jesus commands it, but His command is an invitation back into His infinite love for us, the place where we find the power to forgive.

2) We must also forgive because its evidence of our salvation.

Jesus says in [Matthew 18:35](#) “So also my heavenly Father will do to every one of you, if you do not forgive your brother from your heart.” Some people have thought this to mean that our forgiveness is dependent first upon our forgiving of others. However, the parable shows us that this is not what Jesus is saying. The King forgave the servant before he even had a chance to forgive his fellow servant. Puritan John Owen said, “Our forgiving of others will not procure forgiveness for ourselves, but our not forgiving of others proves that we ourselves are not forgiven.” The servants unforgiveness proves that he did not receive the forgiveness of the King such that it changed his heart, rather it seems he sought personal benefit only. However, when we truly receive the forgiveness bought for us by the death of Jesus, it takes root in our hearts and begins to change us. We begin to desire to please God and that His character, His love and forgiveness be known by all people. We respond to His grace by showing it freely to others and as we do so, we give evidence that we have been forgiven ourselves. Notice again Jesus' words. He says, unless you forgive “from your heart.” This is not a forceful forgiveness that I hear between my kids some days, “I forgive you...” Jesus calls us to forgiveness that flows out of a heart that is covered in the love and peace of Christ. Without it, we must ask ourselves, “Do I personally know the enormous debt I have been forgiven by God in Christ?” If so, what is preventing me to showing that same grace to another? As recipients of salvation, forgiveness of sin, we have the opportunity to live as ambassadors of God's forgiveness in a world that does not know Jesus.

3) Our last reason we must forgive is that we imitate God most when we forgive.

[Ephesians 5:1\(ESV\)](#) “Therefore be imitators of God, as beloved children.” How do we imitate God?! Paul says in the verse right before this one, [Ephesians 4:32 \(CSB\)](#) “And be kind and compassionate to one another, forgiving one another, just as God also forgave you in Christ.” We display the character of God in our lives most clearly when we love enough to forgive others from our heart. I will never forget that day. It was 2007 and I was in my office working. I began to see police cars flood the town as we received the news that there was a student on the college campus just several hundred meters away who had begun shooting people. My heart sank as I heard that he was shooting in the building beside the building where Kelley was in class. I could hear gun shots. Several hours of calling Kelley before I found out she was okay. The student had chained the doors of a building shut, shot and killed 32 people. When he finished, he killed himself. In the following days I heard many interviews of people who were affected by this horrible event, each person expressing their sadness for the 32 people who died. Then I saw an interview with one family whose daughter had been killed that day. Instead of expressing sorrow for 32 people, they expressed grief for 33. They were sorrowful for the man who had murdered their daughter. I am not sure about you, but it would have been hard for me to not be glad that man was dead. But they didn't stop there. They said, “we forgive him for what he did and we are praying for his family.” I later found out that they were Christians. The love of God displayed by giving His son to pay for our forgiveness not only saves us but gives us the power to truly forgive others. How is God calling you to respond to that love today?